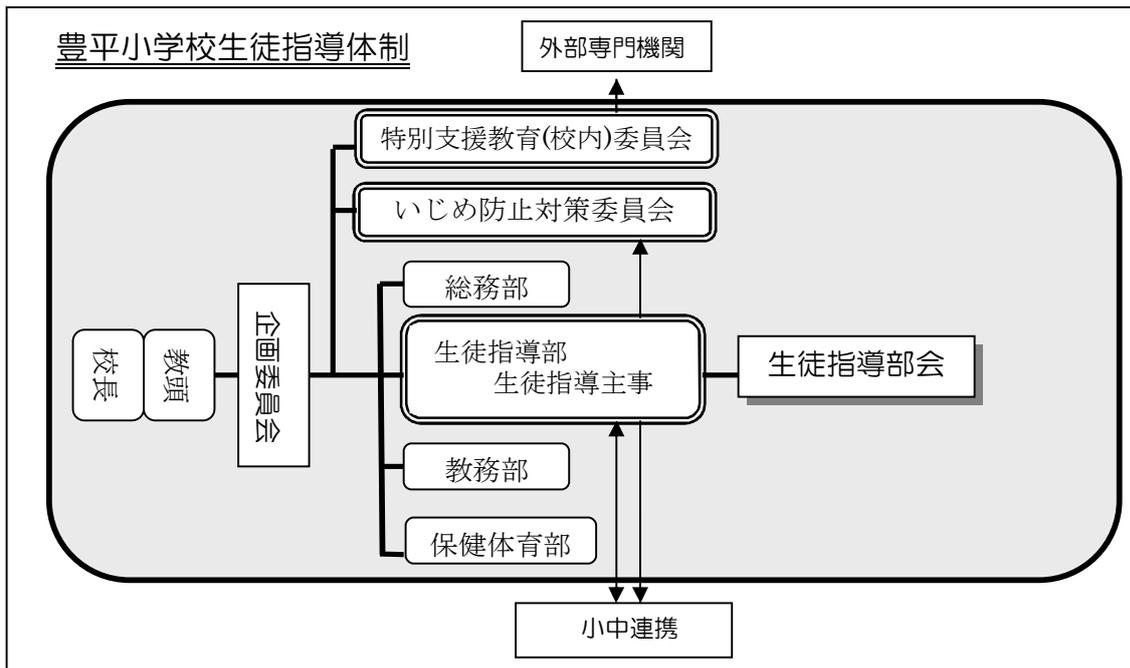


生徒指導推進計画

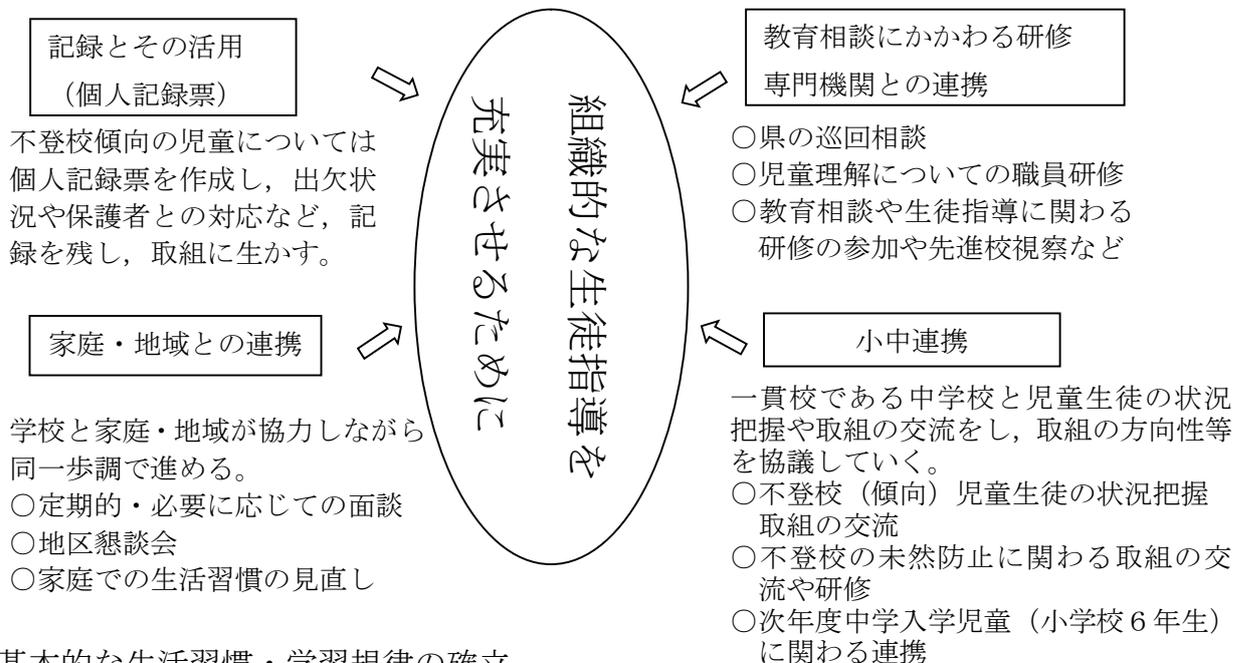
1. 組織的な生徒指導体制による指導



【校内組織】 サポートチームの組織（報告・連絡・相談）

- いじめ防止対策委員会（定例月1回）…管理職・生徒指導主事・養護教諭・該当児童の担任等
- 特別支援教育(校内)委員会**（月1回）…管理職・該当児童の担任・特別支援教育コーディネーター・養護教諭等
- 暮会（毎週金曜日）で、配慮を要する児童・気になる児童について交流・共通認識

【組織的な生徒指導をさらに充実させるために】



2. 基本的な生活習慣・学習規律の確立

- 挨拶・返事、掃除、時間厳守など日常的な指導を徹底する。
 - ・「はいっ」の返事を大切に
 - ・挨拶をする **あいさつ合言葉**（いつでも どこでも だれとでも）挨拶をする。
 - ・掃除をがんばる **しじみそうじ**（**し**ゃべらず、**じ**かんいっぱい、すみずみ）掃除をする。
 - ・時間を守る **タイム3**（3時間目の始まり、5時間目の始まり、下校の集合）は意識して守る。

- 学習規律（発表の仕方・姿勢など）を確立する。
- 人と関わる力を高める取組を重ねる。
 - ・職員室の出入りの指導（立ち止まって「失礼します」「失礼しました」「〇〇の用事で来ました」）
→職員もきちんと答える
- 三点固定（早寝・早起き・朝ごはん）の取組を保健体育部と連携して進める。
- 保護者との連携を進め、児童の基本的な生活習慣が定着するようにする。

3. 自己指導能力の育成

- 生徒指導の三機能を生かした授業づくり・集団づくり

- ・自己決定の場を与える。
…児童が決められたルールを守り、自分自身で責任が取れる範囲内で、自らが行動を選択し、その行動に責任をとる機会を与える。
- ・自己存在感を与える。
…児童一人一人は、かけがえのない存在であり、一人一人の存在を大切にする指導を行う。自己存在感は他者との関わりの中で見い出されることもあり、望ましい集団づくりが重要である。
- ・共感的人間関係を育成する。
…教職員と児童および児童同士が、相互に尊重し共感的に理解しあう人間関係を育成する。
<各教科・道徳・総合的な学習の時間・特別活動・学級行事・学校行事等を通して育てる。>

- 自信を持たせ、自己存在感や自己肯定感を高める取組を重ねる。
 - ・一人ひとりに活躍の場・役割を果たす場をつくる（学校行事・各委員会・クラブ・係活動など）
※活躍の場・役割を果たす場 → やりきらせる → 肯定的な評価（しっかりほめる）
 - ・帰りの会で一日を振り返り、がんばったことやうれしかったことなどを出し合わせ評価する
 - ・種々の活躍や努力を全校で表彰する
 - ・子どもの自主性・主体性を生かし、自主的活動を促す生徒指導を行う（児童の自治的活動の充実）

4. 問題行動の未然防止と迅速な対応

- 職員が意識してどの子にも声かけをする。問題行動に対しては、生徒指導規定・対応マニュアルに基づき組織的に迅速・丁寧に対応する。
- アンケート（今の気持ち【年2回実施】、体罰・いじめ【学期1回実施】）を通して未然防止や学級経営に生かす。
 - ・学校全体の取組の参考にする（子どもの実態把握）
 - ・アンケート→自己肯定感・人との関わりの中での意識・学習に対する意識など
- カウンセリング週間の実施
 - ・アンケート等をもとに一人ひとり面談し、日頃言葉では伝えられない子どもの思いをつかむ。
 - ・悩みや問題を抱えている子どもの早期発見に努める。
- スクールカウンセラー、警察・子ども家庭センター等の専門機関との連携により、問題行動の未然防止を図り、迅速な対応を行う。
- 長期休業前には非行防止教室を実施し、児童の問題行動の未然防止に努める。合わせて、悩みの解決方法や相談方法を指導し、児童の自殺予防にも努める。

5. 規範意識の向上と耐性を身につける生活指導

- 学校生活の指導方針を統一する。（同一歩調でぶれない指導）
 - ・職員間の指導のズレを防ぎ、子どもたちに不公平感や不満を持たせない。
- ルールを守り、やる気が持て安心して力が発揮できる学校づくり
 - ・生活目標を全校のみんなが意識しがんばることで、お互いが約束を大切にして安心して学校生活を送ることができる。→児童会本部役員を中心に
 - ・がんばりを全体の場で肯定的評価をする。
 - ・「豊平小学校のきまり」を絶えず意識させる→全校指導
- 学校生活以外の生活指導（朝の交通立ち番や一斉下校指導など）
- 高学年や通学班長、縦割り班長に責任感を持たせる。（リーダーの育成）
- 保護者・地域や警察等との連携を通して、規範意識を身につけさせる。